

平成 17 年 2 月 24 日
内閣府国民生活局企画課

平成 16 年度国民生活モニター調査結果(概要)

(省資源・省エネルギーと国民生活に関する意識調査)

1. 調査目的

地球温暖化などの環境問題が深刻化している中、国民が日常生活において、

- ① 地球環境問題や省資源・省エネルギーに対しどのような意識をもっているか
- ② 実際にどのように行動しているか 等

国民の意識・行動の実態を調査し、その結果を今後の施策展開の基礎資料として活用するため、国民生活モニターへのアンケート調査を実施した。なお、平成 14 年 5 月にも同様の調査を行っており、今回は前回との比較も行った。

2. 調査期間

平成16年11月 5日(金)～平成16年11月19日(金)

3. 調査対象者

全国の国民生活モニター 2,113 人

(有効回答者数) 2,011 (回収率 95.2%)

(参考)

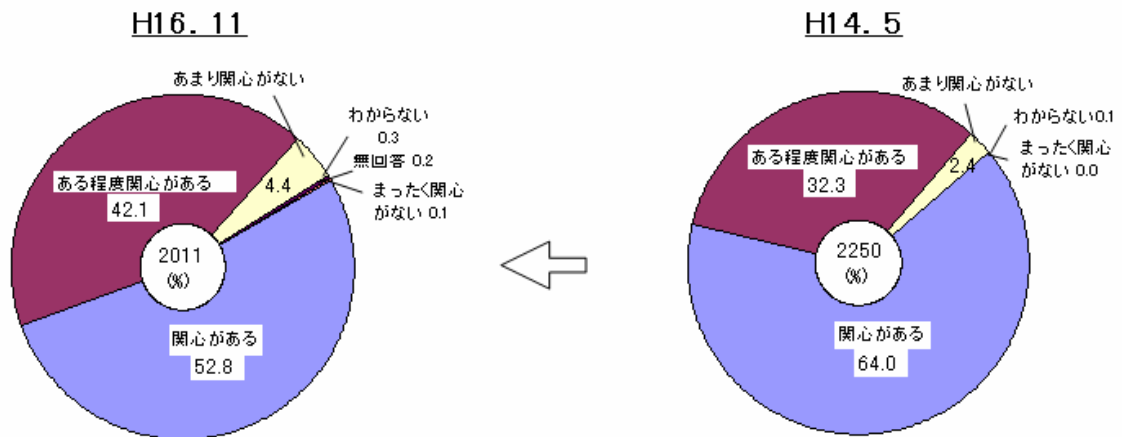
国民生活モニター制度とは、国民生活政策を効果的に実施するため、消費者の購買態度や意識の把握、国民生活行政に対する意見の把握、いろいろな商品等の価格や各種サービス料金の実態の把握、政府等からの正確な情報の提供等のために、昭和 48 年から実施されているものである(「国民生活モニター」の名称は平成 13 年から)。また、モニターは全国に 2,113 名おり、任期は4月から翌年の3月までの1年間、調査報告や意見を提出することになっている。

【調査結果の概要】

1. 「地球環境問題」や「日常生活の中での省エネルギー」に対する関心や取組み意向は、極めて高い。(3～5頁 問1～問3)
2. 実際に省エネ行動を行っている人も全体としては着実に増えてきている。
(6～7頁 問4)
3. 実際に行っている省エネ行動(6～7頁 問4)
 - 実施割合の高いもの
 - (ア) 不必要な電灯や冷暖房器具はこまめに消す 93.5%
 - (イ) テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす 75.1%
 - (ウ) 部屋の冷暖房を控えめにする 79.7%
 - 実施割合の低いもの
 - (エ) 冷暖房器具の置き場所を適正にする 26.2%
 - (オ) 買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する 23.9%
 - (カ) 壁などに断熱材をいれる 20.2%

問 1 あなたは、オゾン層の破壊、地球の温暖化の問題や熱帯林の減少などの地球環境問題に関心がありますか。それとも関心はありませんか。次の中から1つだけ〇をつけてお答えください。（〇は1つだけ）

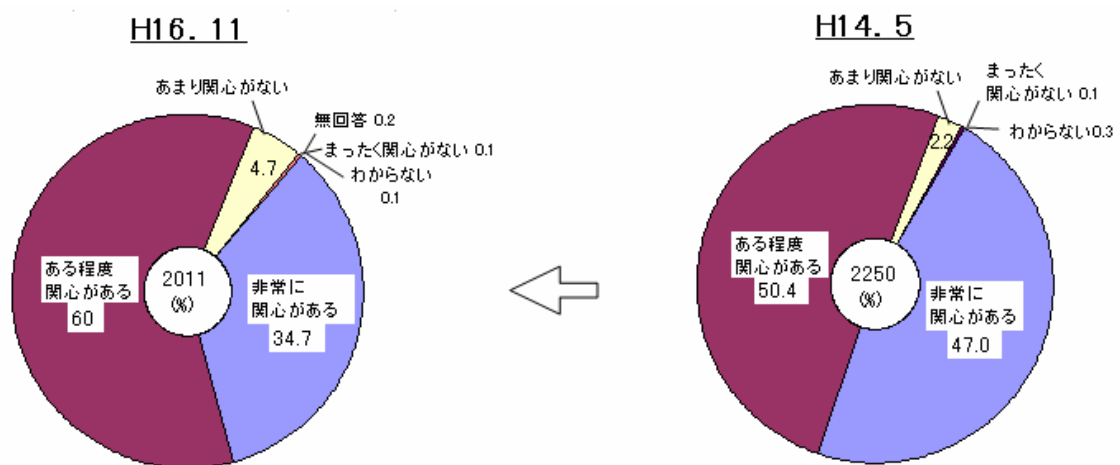
- 1 関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない
- 5 わからない



地球環境問題については、「関心がある」、「ある程度関心がある」を合わせると 94.9% であり、関心は前回調査（96.3%）と同様に高くなっている。

問2 我が国では、日常生活で消費されるエネルギーは全体の約3割を占めていますが、あなたは、日常生活の中で行う省エネルギーについて、どの程度関心がありますか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

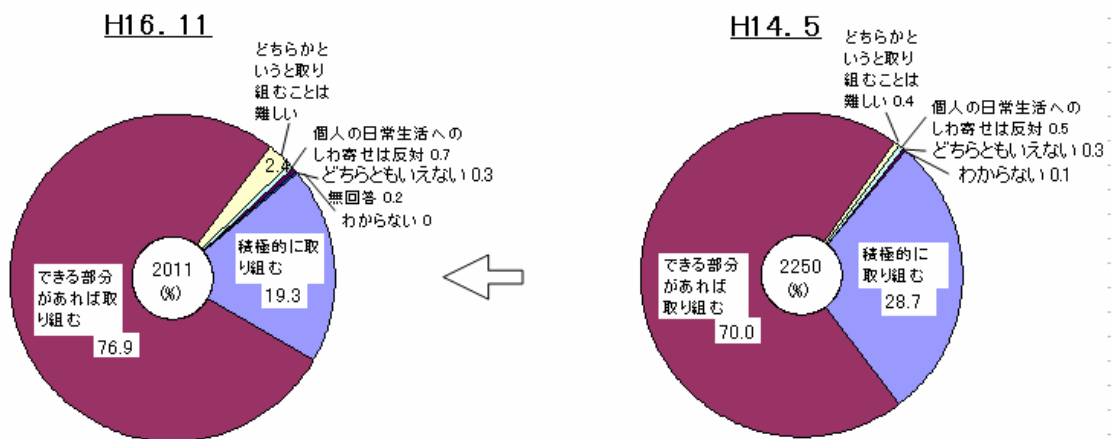
- 1 非常に関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない
- 5 わからない



省エネルギーについては、「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」を合わせると94.7%であり、関心は前回調査（97.4%）と同様に高くなっている。

問3 あなたは、地球温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについて、どのようにお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

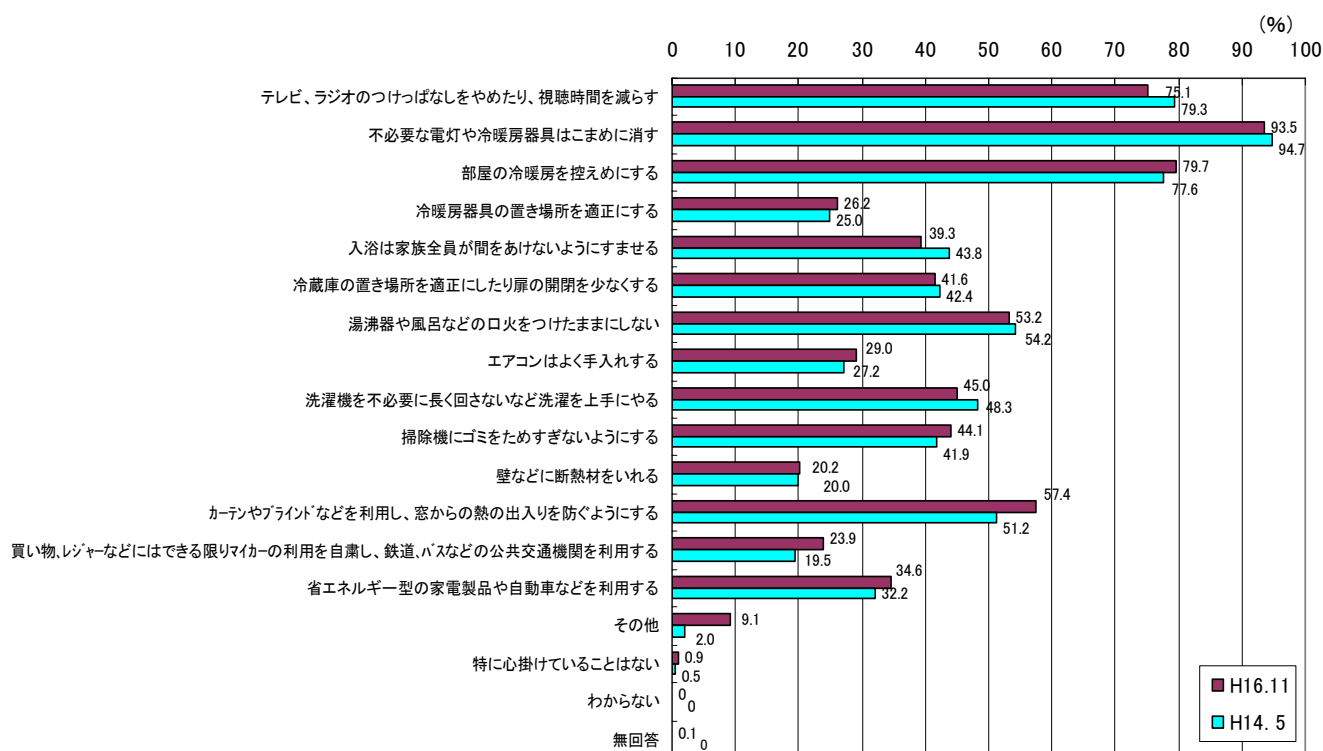
- 1 積極的に取り組む
- 2 できる部分があれば取り組む
- 3 どちらかというに取り組むことは難しい
- 4 個人の日常生活へのしわ寄せは反対
- 5 どちらともいえない
- 6 わからない



温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについて「積極的に取り組む」、「できる部分があれば取り組む」を合わせると 96.2%であり、取り組み意向は前回調査(98.7%)と同様に高くなっている。

問4 あなたは、日常生活の中で、エネルギーを節約するために、何か実際に行っていることがありますか。次の中からいくつでも○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす
- 2 unnecessary電灯や冷暖房器具はこまめに消す
- 3 部屋の冷暖房を控えめにする
- 4 冷暖房器具の置き場所を適正にする
- 5 入浴は家族全員が間をあけないようにすませる
- 6 冷蔵庫の置き場所を適正にしたり扉の開閉を少なくする
- 7 湯沸器や風呂などの口火をつけたままにしない
- 8 エアコンはよく手入れする
- 9 洗濯機を不必要に長く回さないなど洗濯を上手にやる
- 10 掃除機にゴミをためすぎないようにする
- 11 壁などに断熱材をいれる
- 12 カーテンやブラインドなどを利用し、窓からの熱の出入りを防ぐようにする
- 13 買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する
- 14 省エネルギー型の家電製品や自動車などを利用する
- 15 その他 ()
- 16 特に心掛けていることはない
- 17 わからない



前回調査と比べると、全体としては、省エネ行動を行う人が着実に増えてきている。

詳細に見ると、省エネのために実際に行っている行動のうち、「テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす」（75.1%）、「不必要な電灯や冷暖房器具はこまめに消す」（93.5%）、「部屋の冷暖房を控えめにする」（79.7%）など、身近にできる省エネ行動をとる人は、前回調査と同様に多くなっている。

前回調査に比べて伸びている行動としては、「カーテンやブラインドなどを利用し、窓からの熱の出入りを防ぐようにする」（51.2%→57.4% 6.2ポイント増）の伸びが最も大きく、次いで、「買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する」（19.5%→23.9% 4.4ポイント増）等となっている。反対に前回調査に比べて、「入浴は家族全員が間をあけないようにすませる」（43.8%→39.3% 4.5ポイント減）、「テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす」（79.3%→75.1% 4.2ポイント減）等の行動が低下している。

一方、「冷暖房器具の置き場所を適正にする」（26.2%）、「買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する」（23.9%）、「壁などに断熱材をいれる」（20.2%）を行っている人は、4人に1人ないしそれ以下となっており、環境調和型ライフスタイルの定着に向けた今後の課題である。

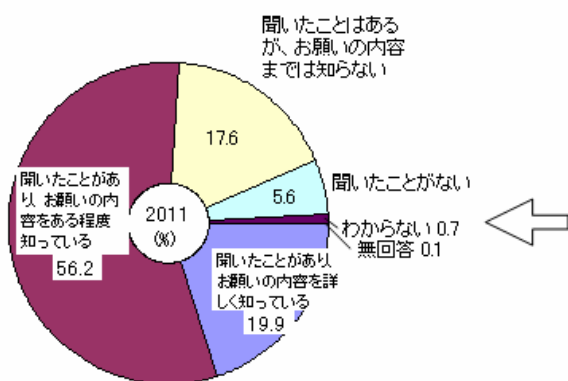
【16.11 調査 その他の自由回答（主なもの）】

- ・ 買い物には、マイバッグやカゴを持参する
- ・ 太陽光発電を設置している
- ・ 使わない電化製品はコンセントからこまめに抜いて待機電力を抑えている
- ・ 車のアイドリングストップを心掛けている

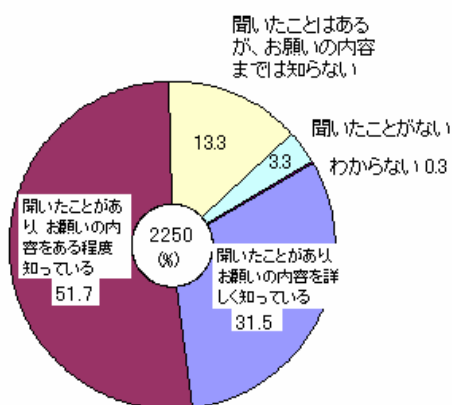
問5 政府では、毎年、夏季と冬季の省エネルギー対策を決め、各家庭などで省エネルギーに協力していただけるよう、ポスターやテレビなどを通じて、「暖房中の室温は20℃以下に設定を」、「暖房機器のつけっ放しを控えましょう」などのお願いをしていますが、あなたはこのことについて、どの程度ご存じですか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

- 1 聞いたことがあり、お願いの内容を詳しく知っている
- 2 聞いたことがあり、お願いの内容をある程度知っている
- 3 聞いたことはあるが、お願いの内容までは知らない
- 4 聞いたことがない
- 5 わからない

H16. 11



H14. 5



省エネに係る政府の広報については、「聞いたことがあり、お願いの内容を詳しく知っている」、「聞いたことがあり、お願いの内容をある程度知っている」の合計が、前回調査の83.2%から今回76.1%と7.1ポイント減っている。